

「実践研究協働校事業」 & 「授業づくり講座」からの気付きや学び

先日の教科主任会では、「実践研究協働校事業」数学科授業研究会（11月1日）と「授業づくり講座」理科授業研究会（11月8日）からの気付きや学びを共有しました。

気付きや学び

- ・ 日常の事象で考えていくことは大切だが、その教科としての「付けさせるべき力」を押さえておくことが重要。
- ・ 何を学ぶかを焦点化する。また、どのように焦点化するかを考える必要がある。
- ・ 教科の見方・考え方を働かせるために教えるべき知識と考えさせることを明確にしておく。
- ・ 子供の実態と全体のバランスを考えて単元をつくる。単元を描く。
- ・ 探究の過程をどのようにまわすか、教材に合わせて考えていくことが大切。
- ・ 既習の知識と関連させていく指導の過程、単元を考える。
- ・ 体育としても既習事項を使ってどう生かすかを考えていく。（系統性の大切さ）
- ・ 知識・技能が身に付いていないと思考・判断・表現ができない。授業の中で知識・技能について振り返らせる場面も必要。
- ・ 生徒自身が学びたい、解決したいと思える課題の設定。
- ・ 教師側が意図する必要なことを、生徒が必要だと感じられるように仕組むことで学びが主体的になる。
- ・ 生徒の意見を引き出しながら納得できるようにしていくことが大切。
- ・ 日常生活で使える汎用的思考力を授業の中で鍛えていくことやその解釈について共有することが大切。
- ・ 正しい学びにつなげる教科指導の在り方を考えていく。
- ・ 正解を求めるのではなく、納得解を求めていく。（「ここに注目してこう考えたからこういう答えや表現にした」を求めていく。）
- ・ PPDAC の解釈について生徒の意識に落とす。
- ・ 数学の PPDAC の流れが社会の学習の流れに似ている。社会でも生かす。
- ・ 評価とは子供をエンパワーメントする営み。途中でフィードバックをし、できるようにしていく。



- ・ **ゴールの明確化及び「めあて」の焦点化（見方・考え方の視点を含む）**
評価の視点も併せて明確にしておく
- ・ **単元をつくる（既習をどう生かすか、何を積み上げるか）**
- ・ **必然性のある課題の設定、課題解決（生徒にやってみたいと思わせるもの）**
- ・ **生徒の意見を引き出し、正しい学びにつなげる（納得解 ≠ 根拠）**

教科主任会で最後に確認したことです。今後の単元づくりでも、各教科意識していきましょう。

高知県学力定着状況調査に向けての取組



社会の問題に取り組む1年生

各教科では県版学力調査に向けて、8月の教科会で9月以降のスケジュールを決めて取り組んできましたが、先日より、生徒への意識付けとともに本格実施をスタートさせています。

19日から朝読書の時間を社会と理科の学習時間（テスト）に当てています。30日からは放課後補習を始めます。そして現在は終学活後の30分間を設定し、期末テストの勉強を行っています。

再確認を！

各学級
では

意識付けとして十分伝わっているか生徒の様子を観察してください。十分でなければ、再度お伝えください。

各教科
では

- ・ 各教科でも意識付けをお願いします。
- ・ 朝学習や放課後に取り組む問題について、時間いっぱい取り組める内容と量の検討をお願いします。
- ・ 「いつ」「どの問題を使って」や、「定着が十分でない領域や指導事項は何か」、「この1問ができるようになるとスコアがぐっと上がる問題は何か」など再度の確認をお願いします。

